

区西北部ブロック
コロナ禍における**OT**情報交換会
まとめ資料



はじめに

- 本資料はR2.10.9に企画した「コロナ禍におけるOT情報交換会」に参加し頂いた先生方の「施設での取り組み」「工夫していること」等の意見をまとめました。
- 大項目として各施設での
 - ①感染対策（病院施設での感染対策）
 - ②新人教育（実習生の受け入れ状況を含む）
 - ③その他（行政・通所事業所・訪問事業所）各項目事にスライドにまとめてあります。

感染对策

1.施設の取り組み（職員への対応）

- ・職員は朝・昼・夕の検温の実施。微熱症状等何か症状がある場合はPCR検査を実施。
- ・マスク着用の徹底,食事や入浴時の介入等,対象者がマスク着用困難な場合はフェイスシールドの着用している。
- ・スタッフの休憩中は食事は対面で座らない。しゃべらない等対応している。
- ・実際に職員がPCR検査実施した例がある。

コロナウィルス感染疑いの職員はPCR検査の結果が出るまでは出勤停止。

また、同職員と接触した患者様は2週間前に遡り把握し状態観察に努めた。

1.施設での取り組み②（環境面への工夫）

- ・ スタッフは各フロアで担当を分け、施設内でも交わらないようにチーム化している。
- ・ 外来と入所の分離を実施している。入院患者様に関しては、病棟や階ごとの分離を徹底している。
- ・ 外来・入院患者のソーシャルディスタンスを保つ方法として、カラーコーンで目印を作り、その先は外部の方は入らないように注意喚起を行っている。
- ・ 初期は国内の感染者数・陽性率に応じて外出訓練や家屋調査の会議をしていたが、会議数が多すぎるので、病院独自のコロナ感染状況の分類を作成した。その分類レベルに応じて面会やカンファレンスについて対応している。

2.施設での取り組み②（環境面への工夫）

- ・ 治療のために使用する物品について、毎回、物品消毒をすることは対応しきれないため、介入前後での手洗い・手指の消毒を徹底している。
- ・ OTで隔離等徹底はしているが、喫煙所や就業施設など他の生活環境で不特定多数の人との接触する患者さんもいるため感染リスクは拭えない。

1.患者様への対応

- ・患者様へのマスク着用を徹底しているが,認知機能等でマスク着用が難しいことがある.
その場合は個室対応としている. マスク着用を必須にすることは難渋している.
- ・マスクは基本的に自身で用意するようお願いしているが,用意して頂けない時は,施設側で支給し対応している.
- ・新規での入院患者様は,2週間は個室を利用して頂き隔離して対応している.

新入職員・実習生 の受け入れについて

1.新人教育について

- ・ 研修の方法にeラーニングを取り入れ,集団にならないようにして対応している.
- ・ 実技の研修は行えず,移乗等の実技指導に関しては、密にならるようにグループ人数の配慮や時間を調整して行っている.
- ・ 教育は例年通りのカリキュラムで進めることができず,1年目職員の不安は大きい.
また,来年の新人は臨床実習を経験していない可能性もあるため,症例検討の症例数を増やし発表していく予定.

1.実習生受け入れについて①（施設側）

- ・ コロナウィルスの蔓延により今年度は,実習の受け入れを中止させてもらった.
- ・ 現在2か月間の長期実習を受け入れている. 検温などの感染対策は実施. 患者様とは一定の距離をとり,話す時間は10~15分の制約を設けている.
- ・ 実習生は期間を短縮して受け入れ実施. 学校側は学生への感染対策を徹底している.
- ・ 7月まで全面中止していたが,8月より受け入れを再開している. 実習期間を短縮して対応している. 担当症例も2症例を1症例に変更して対策をしている.
- ・ OTの学生では無いが受け入れていた学生と同じ学校でコロナウィルスに感染した学生がいた. その際は,実習を中止として対応させてもらった.

2.実習生受け入れについて②（学校側）

- ・ 学生への感染対策は学校の中でも指導をしている.
- ・ 前期は学校内での学内実習としたが,後期は8週行くカリキュラムを4週に短縮して行った.
- ・ 協力して頂ける施設は確保でき60名の学生受け入れて頂くことは出来た.
- ・ 学生からは,実習期間が短くなってしまったことで臨床へ出る際の不安の訴えも増えている.

その他

(行政・通所・訪問)

1.行政との取り組み

- ・ 介護予防事業,一般的な感染対策をした上で継続している.
通いの場は7月まで中止,8月頃から再開. 再開にあたり感染対策マニュアルを作成し巡回者には配布した. 現在,医師会と連携しコロナ禍におけるスタッフの人材確保に向けて事業所同士で連携がとられるように検討中.
- ・ 行政のオンライン化が進まないのはなぜか.
費用の問題と情報管理のめんからではないか.
ZOOMよりTEAMSを活用する自治体が多い様子との意見もある.

1.通所事業所

通所事業所（精神科領域）

- ・デイケアにて緊急事態宣言により利用者数が半減したが現在はだいぶ戻ってきている。

通所リハビリ（身体領域）

- ・換気を行い,患者様使用事にはプラットフォームの消毒,手洗い手指消毒の徹底。
- ・集団が集まることを好まない利用者様用に午前中・午後に短時間での枠を設立,少人数で通える時間を作り対応している。

1. 診療所・訪問事業所

精神科領域

- ・ 医師会,保健所と3月中旬から連携を取りながら対応していることで他の医療機関などとも連携がとりやすいが,院内外の対面でのカンファレンスが禁止となり連携に難渋している. そのため,退院支援がしづらくなっている.
- ・ スタッフ全員にタブレットを支給しオンラインでの会議やカルテの作成に切り替えている.
- ・ 接触を避けるために,スタッフ全員が車通勤にしている.

2. 診療所・訪問事業所

身体領域

- ・ 訪問時はマスク,フェイスシールドの着用を徹底.
- ・ ご自宅訪問前後で手洗い・うがい後、手指アルコール消毒の実施.
- ・ 事務所に集まるのを避けるため,会議はZOOMで行う. 事務所で密になることを避けるため直行・直帰を推奨している.

おわりに

以上、「第1回コロナ禍におけるOT情報交換会」参加者の皆様から頂いた意見を
集約させて頂きました。今回の企画以外にも区西北ブロックで取り上げて欲しい取
り組み等あれば、下記、連絡先からお問合せ下さい！

区西北部ブロックメールアドレス

URL:tokyo.ot.seihoku.block@gmail.com

区西北部Facebook

URL: <https://onl.tw/yg6hp8h>